

定期作況報告

(第3号 平成17年7月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より3.0 高く、最低気温も平年より2.0 高かった。降水量は平年より10.4 少なかった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より18.0時間多く、平年対比136%であった。真夏日（最高気温30 以上）は2日間、夏日（最高気温25 以上）は5日間であった。

7月上旬：最高気温は平年より1.0 低く、最低気温も平年より1.7 低かった。降水量は平年より35.1mm少なかった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より3.5時間少なく、平年対比90%であった。夏日は4日間であった。

7月中旬：最高気温は平年より0.6 高く、最低気温も平年より0.8 高かった。降水量は平年より10.5mm少なかった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より7.0時間少なく、平年対比84%であった。夏日は7日間であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	26.6	23.6	3.0	22.7	23.7	1.0	26.0	25.4	0.6	25.1	24.2	0.9
最低気温()	14.9	12.9	2.0	12.7	14.4	1.7	16.3	15.5	0.8	14.7	14.3	0.4
平均気温()	20.8	17.9	2.9	17.3	18.8	1.5	20.8	20.1	0.7	19.6	18.9	0.7
降水量()	13.0	23.4	10.4	7.0	42.1	35.1	36.5	47.0	10.5	56.5	112.5	56
降水日数(日)	2	3	1	3	4	1	4	5	1	9	12	3
日照時間(h)	67.6	49.6	18.0	30.1	33.6	3.5	37.5	44.5	7.0	135.2	127.7	7.5

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稻 : 平年並

事 由： 幼穂形成期は各品種・苗とも平年より4～5日早く、止葉期では各品種・苗とも平年より1～2日早かった。7月20日現在の主稈葉数は成苗「きらら397」が平年に比べ0.4枚多く、中苗「きらら397」および中苗「ほしのゆめ」は平年より0.3～0.4枚少なかった。 当たり茎数は各品種・苗とも少なく、平年対比の茎数は中苗「きらら397」が88%、中苗「ほしのゆめ」が86%、成苗「きらら397」が78%であった。草丈はほぼ平年並みで、成苗「きらら397」が平年に比べ1.1cm低く、中苗「きらら397」および中苗「ほしのゆめ」はそれぞれ平年より0.4、2.2cm高かった。

以上、 当たり茎数が平年より少ないものの、生育期節は平年より若干早く進んでおり、かつ冷害危険期の低温の影響は少なかったと考えられるため、登熟歩合が高くなることが予想される。したがって、目下の作況は「平年並」である。

表2 水稻の生育期節

品 種 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	6.27	7. 1	4	7.16	7.17	1
ほしのゆめ 中苗	6.25	6.29	4	7.14	7.16	2
きらら397 成苗	6.23	6.28	5	7.12	7.14	2

注1)平年値は平成10～16年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて早を示す。

3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2

4) 止葉期：全茎の40～50%の止葉が展開した日

表3 7月20日の水稻の生育

品 種 苗	主稈葉数(枚)			茎数(本/)				草 丈()		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.0	11.4	0.4	798	911	113	88	67.9	67.5	0.4
ほしのゆめ 中苗	10.2	10.5	0.3	793	921	128	86	74.8	72.6	2.2
きらら397 成苗	11.4	11.0	0.4	671	864	193	78	70.2	71.3	1.1

注1)平年値は平成10～16年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦 : 平年並

事由: 出穂期は平年より6~7日遅く、その後は概ね高温に経過し、さらに前節の少雨の影響から、干ばつ気味に推移した。成熟期は、「ホクシン」が平年より3日遅く、「タイセツコムギ」はまだ成熟期に達していない。最終的な稈長、穂長は平年並みであり、穂数は平年をやや上回っている。しかし、登熟期間が干ばつ傾向に推移したことから、千粒重、リットル重の低下が懸念される。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	6.14	6.7	7	7.19	7.16	3
タイセツコムギ	6.18	6.12	6		7.21	

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本 /)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	82	84	2	8.5	8.6	0.1	700	648	52
タイセツコムギ	83	85	2	9.2	9.0	0.2	613	569	44

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

3) 「タイセツコムギ」は、成熟期にまだ達していない。

3) 大 豆 : 平年並

事由: 6月は平年より高温に推移したため、開花期は平年より3日早かった。7月上旬はやや気温が低かったが、中旬は平年よりやや高めに推移したため、主茎長、主茎節数、分枝数はほぼ平年並となった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.10	7.13	3
トヨコマチ	7.9	7.12	3

品 種 名	主 茎 長 ()			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本 / 株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	55	54	1	9.9	9.9	0	6.8	6.9	0.1
トヨコマチ	59	60	1	10.8	10.9	0.1	6.2	6.5	0.3

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年及び平成14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

4) 小豆 : やや良

事由：降水量は全般に少なかったが、7月上旬を除き高温に経過したため、開花期は平年より2～3日早かった。主茎長および本葉数は平年をやや上回り、分枝数は平年並みかやや少ない。したがって、目下の作況はやや良である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月.日)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.17	7.19	2
エリモショウズ	7.18	7.21	3

品 種 名	主 茎 長 ()			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	31.0	26.8	4.2	8.1	7.5	0.6	5.5	5.6	0.1
エリモショウズ	29.0	26.2	2.8	8.5	7.9	0.6	5.2	5.6	0.4

注1) 平年値は、前8か年中平成14年(最豊)、16年(最凶)、12年(参考)を除いた5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : 不良

事由：開花始は平年より4～5日遅かった。7月上旬を除き高温に経過したが、干ばつ気味だった前節に引き続き全般的に降水量が少なく、塊茎の生育、肥大が停滞している。過去5年間の試し掘りの結果と比較すると、株当たり上薯数は3個少なく、10a当たり上薯収量は40%程度少ない。澱粉価は並みかやや高い。茎長は両品種で対平年比の傾向が異なっている。

したがって、目下の作況は不良である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名	開花始 (月日)			茎 長 (c m)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	6.27	6.22	5	65.2	71.7	6.5
男爵いも	6.27	6.23	4	50.2	41.7	8.5

注1) 平年値は、前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) てんさい : 不良

事由: 6月下旬以降、干ばつによる生育の停滞が認められた。7月中旬にはまとまった降雨が2日あったものの生育の回復には至らず、現在のところ、草丈、生葉数、根周とも平年を下回っている。

したがって、目下の作況は不良である。

表8 7月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 ()			生 葉 数 (枚/株)			根 周 ()		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	47.2	59.1	11.9	22.4	25.0	2.6	21.7	24.6	2.9

注1) 平年値は、前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。